

たちばな祭、大成功！！

10月25日(水)に予定していた「たちばな祭」を無事開催することができました。全校生徒が体育館に入っただけの開催は、コロナ後初、実に4年ぶりとなります。生徒たちは大きく成長し、特に今回は、中間発表以降の成長が著しかったです。中間発表にも講師の方をお招きし、学級ごとアドバイスをいただきました。目指すものが見えたときの生徒の力は、本当に絶大です。

また、保護者の皆様にも多方面にわたり御協力いただき、本当にありがとうございました。

4年ぶりに全校生徒が体育館に入っただけのたちばな祭を行うことができました。御来場いただいた保護者の皆様、ありがとうございました。

1年生は、1年生らしく仲間を信じて、思いっきり自分を表現していました。明るく、前向きな姿をうれしく思いました。

2年生は、明るく仲の良い、温かな学年の雰囲気、そのまま合唱の取組に出ていました。どのクラスもレベルの高い合唱でした。

3年生は、来年、再来年の後輩たちの大きな目標となる素晴らしい合唱を聞かせてくれました。今年の3年生の姿が、周南中の新しい伝統となり未来につながっていくことでしょう。

しかし、私たちは、質の高い素晴らしい合唱をつくることを目的としていたわけではありません。たちばな祭の真の目的は、質の高い素晴らしい合唱を目指してクラスが取り組む中で、次の3つの力を伸ばすことです。

みんなで力を合わせて一つのことをやり遂げる力
何がよいのか自分たちで考え主体的に行動する力
自分や仲間やほかのクラスの素晴らしいところを理解する力



つまり、周南たちばな学園が目指している「他者と協働する力」「主体的に行動する力」「自他を理解する力」を伸ばしたかったのです。この3つの力は、生徒が長い人生を歩んでいくときの大切な武器になります。この3つの力があれば、持続可能な社会の創り手にきつとなれます。

この6月、生徒による「たちばな祭企画委員会」がスタートした時に、生徒にお願いしてありました。「たちばな祭を通して、周南中生には持続可能な社会の創り手になる力があるということを示してほしい」と。企画委員は、主体的にいろんなことを考え、課題を乗り越え、やり遂げました。また、各クラスのパートリーダー、指揮者、伴奏者もそれぞれによく努力しました。そして、生徒一人一人が、よく頑張りました。持続可能な社会の創り手に向かって、みんな伸びていることを校長として心から誇りに思います。

合唱は、その瞬間に消えてしまう芸術です。でも、合唱の感動は、いつまでも心の中に残ります。かけがえのない瞬間を3学年そろって体感できたことを心からうれしく思います。御協力、ありがとうございました。



一人一台端末を活用した「こころとからだの連絡帳 デイケン」

周南中学校では、いじめ・不登校の未然防止の手立ての一つとして「こころとからだの連絡帳 デイケン」という web アプリを導入しています。これは、先日、紹介した文部科学省の不登校対策(cocolo プラン)にも位置付けられている取組です。具体的には、生徒が自分の心と体の状態を、タブレット端末から簡単に入力できるアプリです。

心配事があったり、学級担任に相談したいことがあったりしたときは、デイケンを使うことで、他の生徒には知られず SOS を発信することができます。また、この情報は、学級担任だけではなく、学年主任や生徒指導主事、養護教諭、校長、教頭も見ることができ、助けを求めている生徒をいち早く発見し、組織的に手を差し伸べるために活用しています。

生徒は、デイケンを使って、自分の心と体の状態を毎日確認することで、自分の体調の変化に気づきやすくなり、自分の気持ちにも敏感になります。思春期という成長期にある中学生にとって、それは大切なことです。また、悩みがあることも気軽に伝えることができます。

もちろん、このアプリは万能ではありません。大切なのは、周囲の大人の温かい眼差しと、声掛けです。教師からの毎日のあいさつ、声掛け、励まし、賞賛、対話、授業や行事等を通した生徒一人一人と集団への働きかけを周南中の職員はみんなで心掛け努力しています。しかし、誰一人取り残さないためには、デイケンも大きな可能性があると考えています。

デイケンは、欠席をしているときも入力ができ、その日の心と体の状態を知らせることができます。欠席していても学校とつながることができます。生徒には、上手にデイケンを活用してほしいと思っています。

